

# 中学校数学科グループ研究会

グループ員：長谷 慎一(北中学校) 畠中 健 (東中学校)  
坂本 泰朗(西中学校) 松浦 信 (南中学校)  
増地 剛司(天王寺川中学校) 角所 聡一郎(天王寺川中学校)  
長岡 友昭(松崎中学校) 谷本 浩一(荒牧中学校)  
古谷 俊樹(笹原中学校)

担当指導主事：水津 和雅

キーワード：全国学力・学習状況調査 数学的思考の「見える化」 指導力向上 ICTの活用 小中連携

## 1 研究テーマ

「活用する力を伸ばす授業の工夫」

基礎・基本の定着と数学的思考の「見える化」を目指して

## 2 研究内容

(1) 全国学力・学習状況調査結果分析に基づく授業改善

- ① アクティブ・ラーニングの研究
- ② ICT機器の活用研究
- ③ 学習環境作りと家庭学習の充実

(2) 数学科教員の資質向上

- ① 若手教員の育成
- ② 夏季研修
- ③ 先進校視察 報告

(3) 小中連携

- ① 研究授業における交流
- ② 入学前課題の実施
- ③ 新入生テストに向けた情報交換

(4) 研究会の実施内容

- |     |       |   |
|-----|-------|---|
| 第1回 | 5月23日 | 年間計画作成 市内全体会準備 全国学力・学習状況調査                                      |
| 第2回 | 6月9日  | 数学科全体会総会内容について<br>全国学力・学習状況調査・エデュペディアと連携                        |
| 第3回 | 7月14日 | 全国学力・学習状況調査問題各校担当分析<br>伊丹市数学科夏季研修会の内容について<br>全国算数・数学研究大会視察打ち合わせ |
| 第4回 | 8月1日  | 伊丹市数学科夏季研修会の内容について<br>全国大会視察最終打ち合わせ                             |
|     | 8月9日  | 伊丹市数学科夏季研修会<br>第98回全国算数・数学教育研究(岐阜)大会視察報告<br>若手教員による模擬授業         |
| 第5回 | 9月8日  | 全国学力・学習状況調査の結果分析<br>各校の取組(協働学習・ICT機器活用)の進め方について 等               |
| 第6回 | 10月3日 | 新入生テストについて  |
| 第7回 | 11月4日 | 全国学力・学習状況調査の結果分析 A問題  |
| 第8回 | 12月9日 | 全国学力・学習状況調査の結果分析 A・B問題  |
| 第9回 | 1月19日 | 新入生テストに向けて小学校との交流 今年度のまとめ                                       |

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 昨年度から今年度にかけて「全国学力・学習状況調査」の数学A・B問題の分析をもとに、授業実践を計画することができた。また、話し合う機会を昨年以上に多く設定し、授業技術の共有ができた。
- ② 伊丹市立総合教育センターにて、伊丹市数学科夏季研修会を実施し、全国大会視察の報告会を行い、市内教員の来年度における授業実践に向けた取組につなげることができた。
- ③ 市内の経験年数の少ない数学科教員を対象に、6月から「普段の授業で困っていること」と題して協議する場を設けた。模擬授業を経て、夏季研修会において授業研究を行った。その中で、ベテラン教員や指導主事からの助言や問題提起があり、今後も継続して研究していく必要を感じた実りある研修会となった。
- ④ 新入生テストに向けた小学校の算数担当教員との交流を行い、「中学生になるまでに身につけてほしい力」や「小学校で大切にしている教科指導」等について情報共有することで、校種間の連携を図ることができた。
- ⑤ テストの採点基準の在り方について研究を行った。普段の授業で生徒が陥りやすい間違いや理解の一助となるポイントについて確認し、共通理解することができた。

#### (2) 課題

- ① 生徒の苦手な単元が浮き彫りとなったことから、今後は分析結果を受けて改善点を焦点化し、苦手単元項目の克服に向けた取組が必要である。
- ② 各校で行っている出前授業を定期的実施できるように、グループ研究を通じて得た情報や授業実践を活用し、小中連携を一層推進するための取組としたい。